

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

日高村長 戸梶 眞幸

市町村名 (市町村コード)	日高村 (39410)
地域名 (地域内農業集落名)	能津地区 (鴨地、長畑、宮ノ谷、本村、大花、名越屋、柱谷)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月25日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地域は山間部に位置し、村内でも特に少子高齢化が進んでおり、村内の他地域よりも担い手不足が課題となっている。そのため、地域内外問わず新たな担い手の確保を進めつつ、中山間地域等直接支払交付金制度の活用を広げていく等の必要性が考えられる。
【地域の基礎データ】
主な作物: 水稲、茶、生姜

(2) 地域における農業の将来の在り方

農業分野のみならず地域全体の課題として考え、移住施策等と一体となり農地維持や担い手の確保に取り組むとともに、集落協定の拡大を視野に入れる。また、山間部という特性を活かし果樹等の新たな主要品目の耕作を検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	22 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	22 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
各地区の認定農業者や新規就農者を中心に担い手への集積・集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地所有者に貸付意向がある場合に農地中間管理機構へ貸し付けを行い、担い手へ集約する。
(3)基盤整備事業への取組方針
関係機関との協議を進めながら必要に応じて事業の活用を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
村や県、JAなどの関係機関と連携し、多様な経営体に対して営農支援を行う。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農業者のニーズを把握し、農作業の効率化及び遊休農地の発生防止に務めていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①イノシシ等の被害を防止するため防護柵を設置し、被害情報を村と共有し、有害鳥獣被害対策を連携して進める。
- ⑤耕作放棄地の解消に向け、山間部の農地で新たな果樹等の耕作を進める。
- ⑦中山間地域等直接支払交付金の活用を適切に実施し、農地の保全・管理に努める。